

しんぶん赤旗「夢の映画館、1年」

しんぶん 赤 旗

(第3種郵便物認可)

障害のある人もない人も、いっしょに映画の感動を味わえる『夢の映画館』ユニバーサルシアターがオープンして9月で1年。映画館シネマ・チュプキ・タバタ（東京都北区）の代表、平塚千穂子さんに聞きました。（徳永慎一）

東京「チュプキ・タバタ」

代表 平塚千穂子さんに聞く

地域から

気軽に声

「この1年はいかがでしたか。」

平塚 設立の際は多くの方々に支えていただきました。設立後も「こういう映画館があちこちでできたらいいね」と評価していただけて、ありがたいです。

多くの障害者の方に来ていただき、新たなコミユニティが生まれていると感じています。

遠方から来た障害者の方を地域の方が映画館まで案内してくれたり、近くのお店に障害者の方が買い物に来ることが多く、その対応の相談に乗ったりです。地域の人から気軽に声をかけていただいています。うれしい限りです。

盲導犬を連れた視覚障害者の方が映画を観賞しているのを見て、目を閉じてその感覚を体験して

障害のある人ない人 一緒に楽しむ

「夢の映画館」1年

みたという人がいました。耳の不自由な人はどうやって音を想像するんだろうなど、映画館が、他者への思いを育んでい

「誰もが光」合い言葉に



映画館の内部

「チュプキ」とはアイヌ語で月や太陽、木漏れ日のような自然の光を意味しています。「誰もが光があるがままの光なんだ」との思いが込められています。

J R田端駅から徒歩5分、座席が20ほどの小さな映画館。目の不自由な人、耳の聞こえない人、小さな子どもを連れた人、車いすの人、もちろん障害のない人も常時観賞ができます。

目の不自由な人向けに左右の音量が調整できる音声ガイドイヤホンが全座席に設置され、上映作品には日本語字幕がつきます。音量を振動で感じる「抱っこスピーカー」もあります。

車いすの人は、シアター後方の見やすい席から見る事ができます。子ども連れの人には親子観賞室が用意されています。

ひじ掛けに設置された音声ガイド



親子観賞室



音量を振動で感じ取る「抱っこスピーカー」

他者への思いを育んで

るのかなと思ったりします。

想像力を

働かせて

「目の見えない人が映画を観賞するには、設備が必要ですね。」

平塚 音声ガイドを準備しています。視覚でしかわからない情報を言葉で補足するのが音声ガイ



平塚さん

最近では音声ガイドつきの映画も出てきていますが、それでもいかなる映画の音声ガイ

海外では当たり前か？
これからは？

ドです。目の見えない人は耳に集中します。感性が豊かで、会話のテンポやリズム、漂う空気、息遣いから、想像力を働かせて映画を楽しんでいます。私たちは、表情や情景などを言葉で邪魔しないようにガイドします。間のとり方などは経験が積み重ねていくと思います。

オーディオをつくるので、月替わりは徹底になることもあります。

音声ガイドの講習会も開いているんですよ。製作者を育てるのも大切な仕事です。作り手がたくさん出て音声ガイドも豊かになって、この人の音声ガイドで観賞したいというようになればいいですね。健常者の方も音声ガイド付きで楽しむという、新たな可能性も広がっています。

平塚 海外では障害のあるなしにかかわらず、誰もが映画観賞できるのが当たり前になっていきます。いつでも立ち寄って映画を観賞できる、そういうきっかけを開いていきたいですね。20席という限界があり、チケットの収入だけでは映画館を維持するのは難しい。副収入の道もいろいろと探っています。もともと、たくさんの方の支え

9月の上映スケジュール
(入れ替え制)

「ライムライト」 16日まで
「光」+「その砂の行方」 30日まで
「ブルーハーツが聴こえる」 30日まで
「地球交響曲 第六番」 17日～30日
問い合わせ ☎03 (6240) 8480

でできた映画館です。多くの人の知恵と力に依拠してこの財産を守ってきたいです。

庭先に、花柄のスー
フカップを並べたの
てホッと一息つく頃
ま、フ、フ、フニ

2017年9月11日